

東京から遠隔操作で手術

藤田医科大

藤田医科大(豊明市)は、国産手術支援ロボット「hinotori (ヒノトリ)」を使い、同大に配置した人と類似性が高い生体のブタの胃切除手術を、東京にいる医師が専用回線による遠隔操作で成功させたと明らかにした。同大は遠隔手術の技術向上のため、こうした実験を今後も進めていく。

(福本英司)

技術向上へ実験 ロボット使いブタの胃切除

手術は四月七日に実施した。二〇二二年五月には、同大と三十キロ離れた同大岡崎医療センター(岡崎市)でブタの手術に成功。通信距離の関係で離れた分だけ操作にずれが生じるが、三百キロ離れた東京でも、岡崎の時と比べ、影響はなかったという。

また、この日は、東京に



ロボットによる遠隔手術について話す須田教授＝名古屋市中村区で

いる手術の熟練医師が模擬の臓器を使って、豊明市の同大にいる若手医師にロボット手術を指導する実証実験も行われた。遠隔地でもロボット手術技術の向上を目指した取り組みで、実際に愛知県に來なくてもロボット手術ができる外科医の養成が可能になり、技術の普及が期待できる。

同大は、ITや医療関連企業の担当者を対象に名古屋市中村区のホテルで四月二十一日に開かれた会合で、これらの実験結果を紹介。総合消化器外科の須田康一教授は「新しい手術教育の仕組みをつくっていかないといけない。それが遠隔手術になる」と話した。

同大を運営する藤田学園は十月に、東京都大田区の羽田空港に隣接する複合施設に新たな医療機関を設ける。今後は、この機関を活用して外国人や日本人の医師にロボットを使って遠隔で手術の訓練を行うことを想定している。さらに手術指導は海外での展開も考えている。